

ポイント

- 1) WBGT 計を導入しました
- 2) 熱中症対策キットを貸し出しています
- 3) 熱中症が疑われる傷病者が 2018 年に比べて半減しました

国立赤城青少年交流の家では、熱中症発生の予防と発生時の円滑な対応を図り、利用者および職員の健康を守るために、熱中症対策に取り組んでいます。



取組①

WBGT 値の計測と掲示

WBGT 計を新たに導入し、つどいの広場で WBGT 値を計測して玄関掲示板上に掲示しました。



取組②

熱中症対策キットの貸出

経口補水液と冷却剤をセットした熱中症対策キットを用意し、必要に応じて貸出を行いました。



取組③

夕べのつどいでの対応

16 時の WBGT 値が 28°C を超える日は、夕べのつどいを中止し、休養のための時間としました。

団体代表者様は暑さ指数と下記の注意事項をご確認のうえ、活動内容を検討してください。予定になかった活動変更が必要な際は、職員にご相談ください。

暑さ指数 (WBGT)	スポーツ活動	スポーツ以外の活動
31°C以上	スポーツ活動の中止と代替プログラムの実施を検討してください。	積極的に休息時間を設けてください。
28~31°C	運動強度を下げるなど、活動内容の変更を検討してください。	長時間の活動時には、途中に休息時間を設けてください。
25~28°C	積極的に休息時間を設けてください。	熱中症の兆候に注意しながら活動してください。
21~25°C	熱中症の兆候に注意しながら活動してください。	

※熱中症の発生には、環境や活動だけでなく、疲労や体力など個人的な要因も関係します。体調の把握を心がけてください。

今年度の取組の成果

熱中症予防強化月間である 7 月 1 日から 8 月 31 日の利用団体について、熱中症が疑われる傷病者の発生数が 2018 年度の約半数に減少しました。

